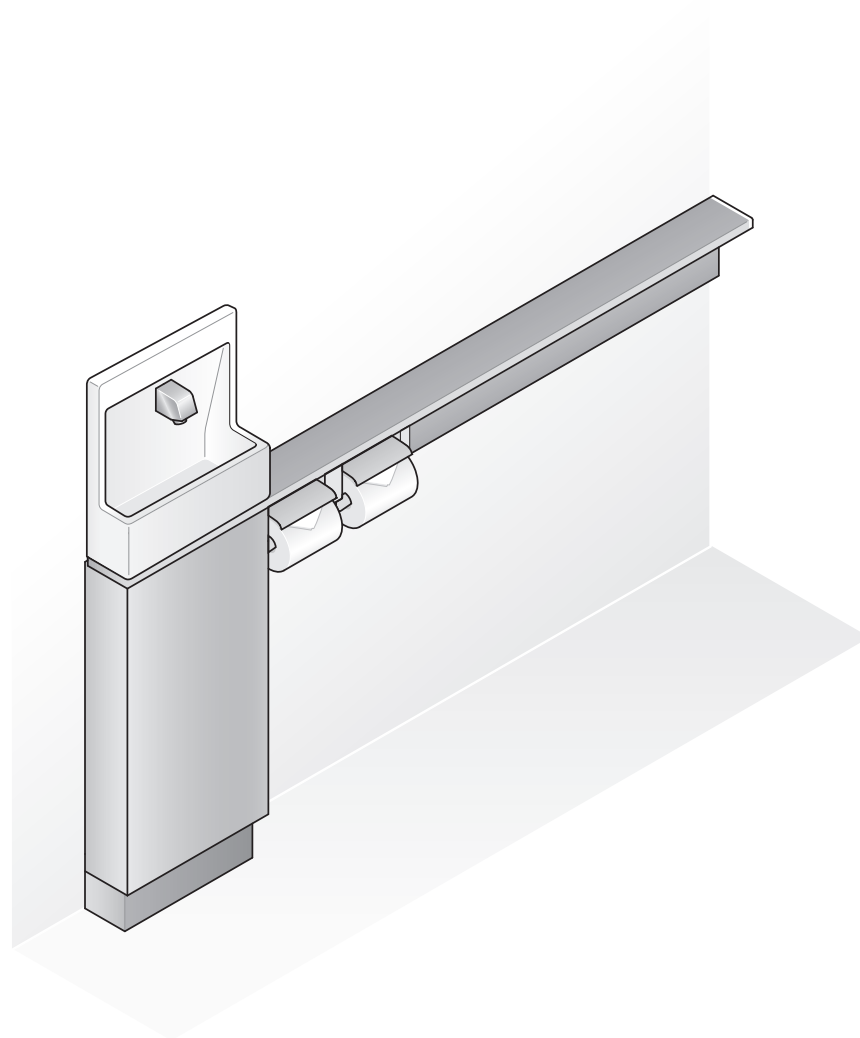


TOTO

施工説明書

スリムタイプC(埋込あり)

製品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。



工事店様へ

- 取扱説明書の最終ページの保証書に、必要事項を記入のうえ、必ずお客様にお渡しください。
お渡しできない場合は、目立つ場所に置いてください。
- 止水栓に同梱されている開閉工具を止水栓にかけておいてください。
- 新築などでお客様に引き渡すまでに時間があるときは、電源プラグを抜いておいてください。

安全に関するご注意

安全のために必ずお守りください。

お取り付け、ご使用前にこの「安全に関するご注意」をよくお読みの上、正しくお取り付け、お使いください。
この説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味はつぎのようになっています。



警告

誤った取り扱いをすると、「死亡又は重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

誤った取り扱いをすると、「人が傷害を負う可能性及び物質的損害の発生が想定される」内容です。



してはいけない「禁止」の内容です。



必ず実行していただく「強制」の内容です。「必ず守る」を示しています。

 警告	 水場使用禁止	浴室など水がかかったり湿気の多い場所には設置しない 製品本体・ねじ類の腐食により、落下してけがやときに死亡の原因となります。	 分解禁止	修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理・改造は行わない(自動水栓・電気温水器) 火災や感電の原因となります。
	 禁止	屋外および傾斜のあるような壁面、振動の激しい場所には取り付けない 取り付けが不安定になり、落下してけがやときに死亡の原因となります。	コードを乱暴に扱ったり、ガタついているコンセントは使わない(自動水栓・電気温水器) 火災や感電の原因となります。	
		水道水および飲用可能な井戸水(地下水)以外は使用しない 皮膚の炎症などを起こす原因となります。	交流100V以外では使用しない(自動水栓・電気温水器) 火災の原因となります。	
		器具取り付け用のねじ固定部の壁裏には、配管・配線をしな い 火災や感電の原因となります。 水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。	給水位置や露出された排水管の真下部に電源コンセントを設置しない(自動水栓・電気温水器) 結露水などにより、電源コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。	
	 必ず守る	電源プラグやコードが傷んだりコンセントの差し込みがゆるいままで使用しない(自動水栓・電気温水器) 火災や感電の原因となります。	 アース接地	アース(D種接地)工事を行う(自動水栓・電気温水器) 火災や感電の原因となります。
 必ず守る	製品の取り付け位置には壁裏に補強する 取り付け物の転倒、落下によりけがの原因となります。	柱・間柱は腐食などで強度不足でないことを確認する 取り付け物の転倒、落下によりけがやときに死亡の原因となります。		
	取り付け面がタイル・コンクリート壁の場合は、コンクリート用プラグ(現場手配)を使用する 取り付けが不安定になり、落下によりけがやときに死亡の原因となります。	機器の設置は専門業者が行う また、電気工事は関連する法令・法規に従って有資格者(電気工事士)が行う 火災や感電・水漏れし家財などをめらす財産損害発生の原因となります。		

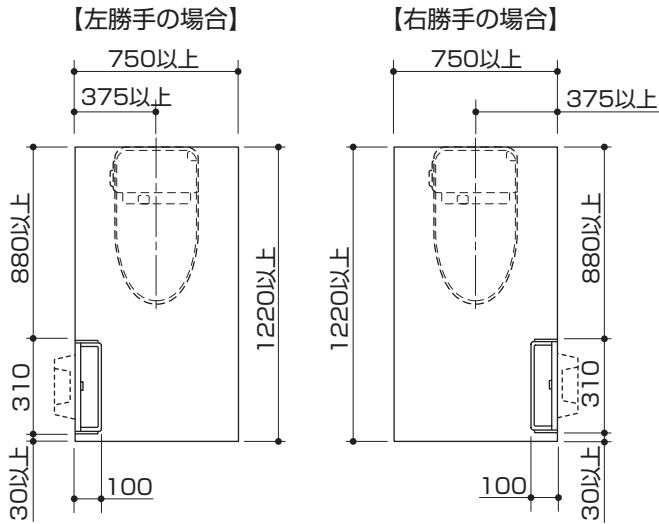
 注意	 禁止	製品に強い力や衝撃を与えない 製品が破損し、故障の原因となります。	止水栓を開けたままで給水フィルターをはずさない 水が噴き出し、家財などをめらす財産損害発生の原因となります。
	 必ず守る	キャビネットは壁への固定が完了するまで、十分注意する 倒れやすく、けがの原因となります。	工事完了後、手洗器・カウンター・キャビネットの固定にガタつき・扉の傾き・丁番のゆるみがないか確認する 倒れやすく、けがの原因となります。
		設置工事に使用する部材は必ず付属部品および指定部品を使用する 取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。	給水フィルター・給水フィルター付水抜栓を取り付けるときは確実に締める 水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。
		工事完了後、給排水管などから水漏れがないか確認する 水漏れすると家財などをめらす財産損害発生の原因となります。	凍結のおそれがある地域では、凍結防止工事を行う 凍結すると器具の一部が破損し水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因となります。

1 取り付け前のご注意

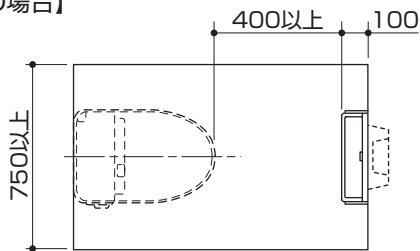
1. 取り付けに必要なトイレスペースを確保するとともに、ドア枠などの干渉により扉が開かなくなる場合がありますので、「設置寸法について」を参考に設置してください。
2. 施工前に給水取出位置・排水管位置およびコンセント位置が所定の位置であることを確認してください。
3. キャビネットの表面にテープ・シール等を貼らないでください。

1 設置寸法について

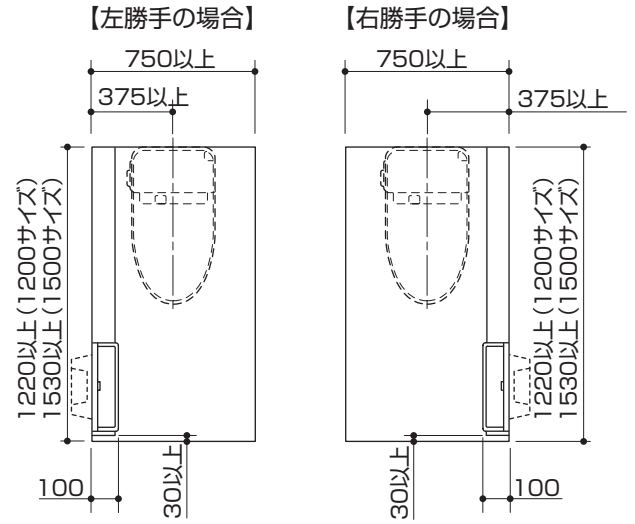
手洗器単体タイプ



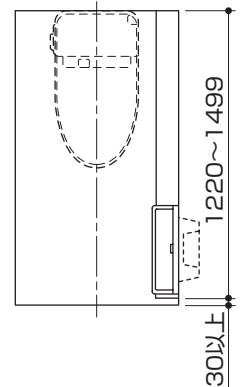
【対面設置の場合】



カウンター(1200/1500)サイズ



1500サイズのカウンターは、トイレ奥行に合わせてカットすることができます。カットする際は、周辺機器の取り付け合いを十分確認してください。

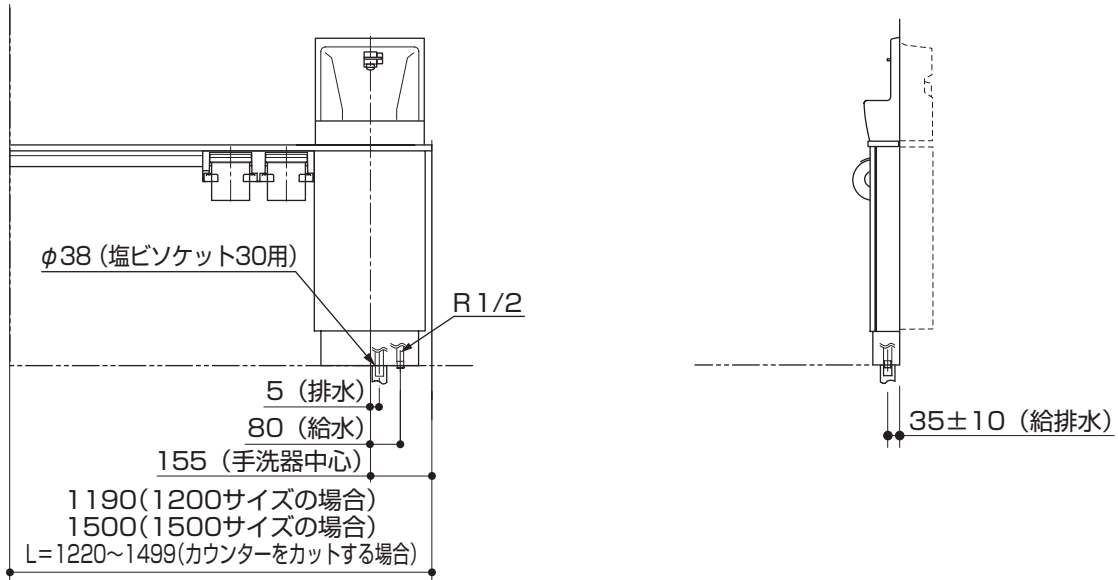


2 給排水位置について

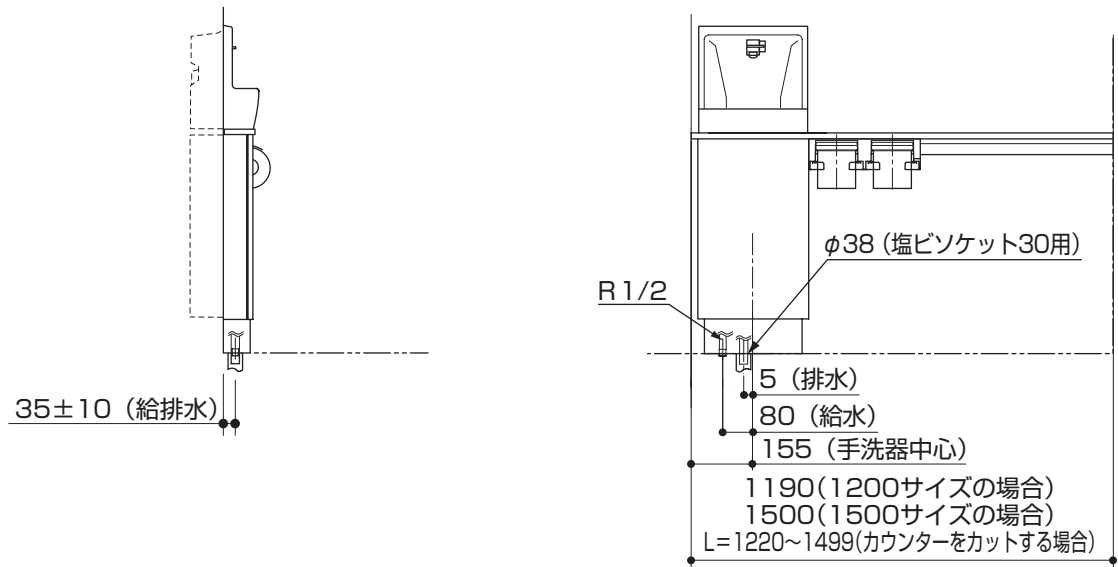
- ・設備側給水管の立ち上げは、壁・床仕上げ面と同一面にしてください。
- ・カウンターをカットする場合は、カウンター長さに合わせて給排水の取り出しを行ってください。
- ・給水圧力範囲は、最低必要水圧:0.05MPa(流動時)、最高水圧:0.75MPa(静止時)です。この圧力範囲であることをご確認ください。

床給水・床排水の場合

右勝手

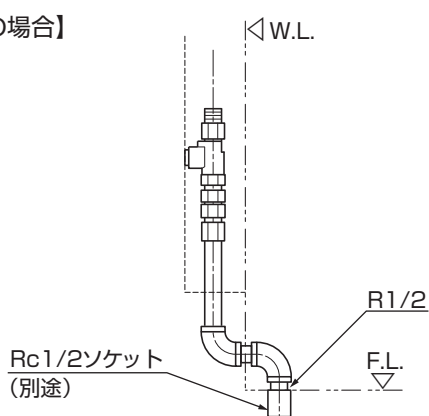


左勝手

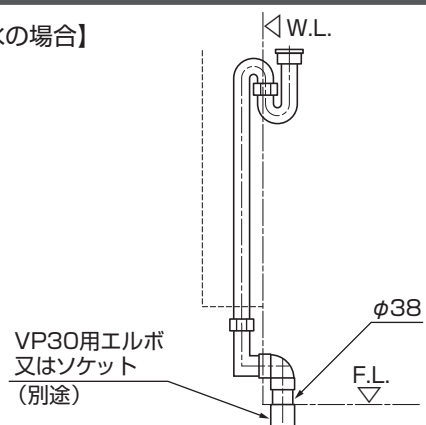


給排水管立ち上げ詳細

【床給水の場合】



【床排水の場合】

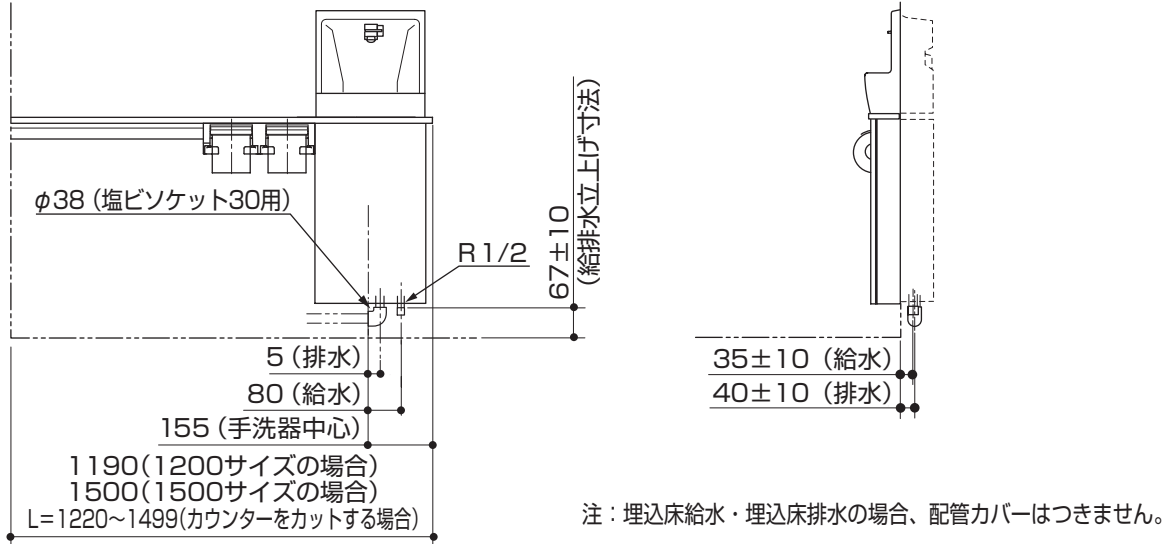


2 給排水位置について (つづき)

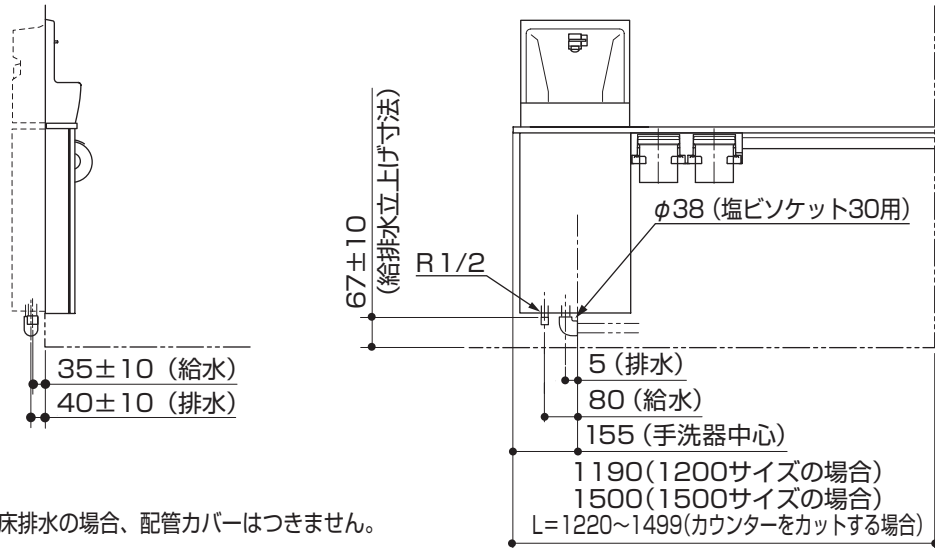
- ・設備側給水管の立ち上げは、壁・床仕上げ面と同一面にしてください。
- ・カウンターをカットする場合は、カウンター長さに合わせて給排水の取り出しを行ってください。
- ・給水圧力範囲は、最低必要水圧:0.05MPa(流動時)、最高水圧:0.75MPa(静止時)です。この圧力範囲であることをご確認ください。

埋込床給水・埋込床排水の場合

右勝手

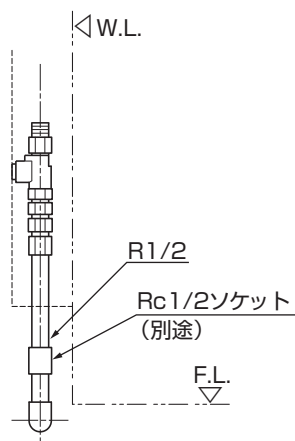


左勝手

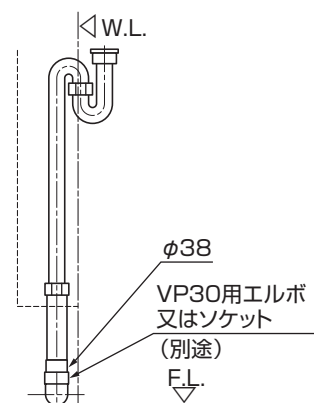


給排水管立ち上げ詳細

【床給水の場合】



【床排水の場合】

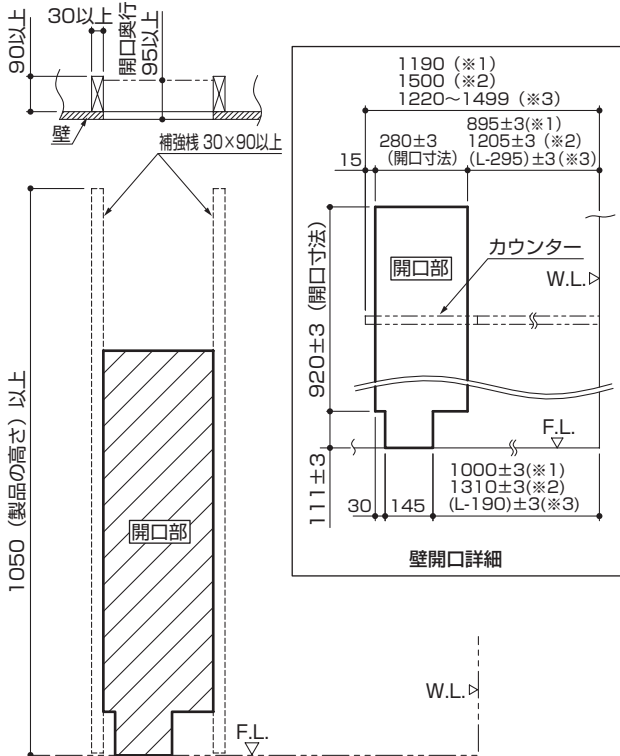


3 壁開口、補強棧について

下図に示す位置にあらかじめ開口が必要となります。

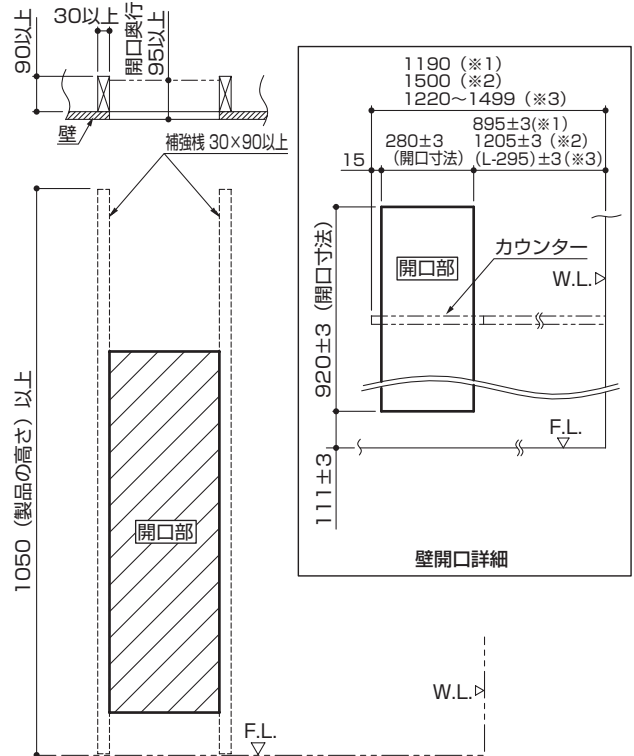
カウンターをカットする場合は、カウンター長さに合わせて開口位置を調整してください。

床給水・床排水の場合



- ※1 1200サイズの場合
- ※2 1500サイズの場合
- ※3 カウンターをカットする場合

埋込床給水・埋込床排水の場合

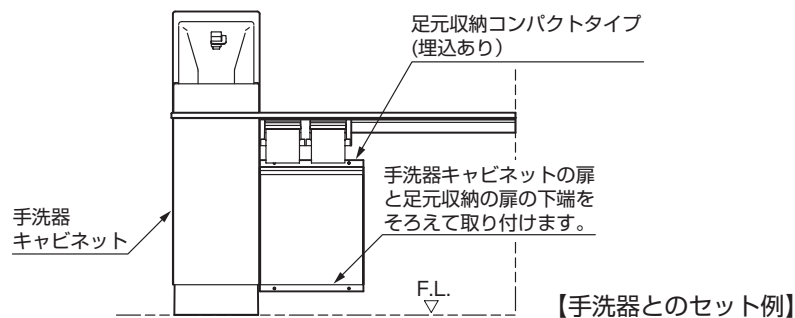


- ※1 1200サイズの場合
- ※2 1500サイズの場合
- ※3 カウンターをカットする場合

※上図は左勝手の場合を示しています。右勝手の場合は上図と逆の配置となります。

足元収納コンパクトタイプ(埋込あり)を手洗器と連結設置する場合

取り付け位置については下記のとおりです。



【手洗器とのセット例】

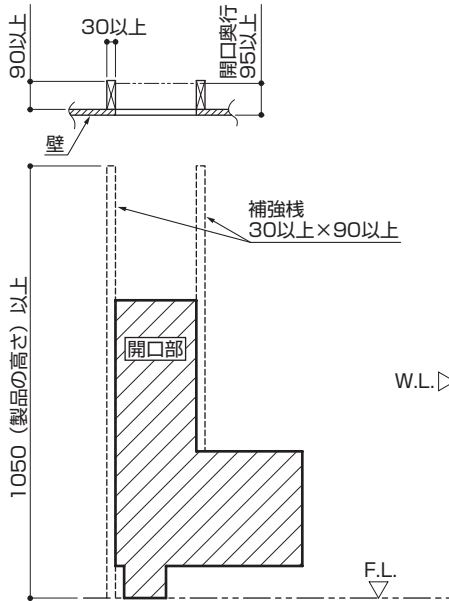
3 壁開口、補強棧について (つづき)

下図に示す位置にあらかじめ開口が必要となります。

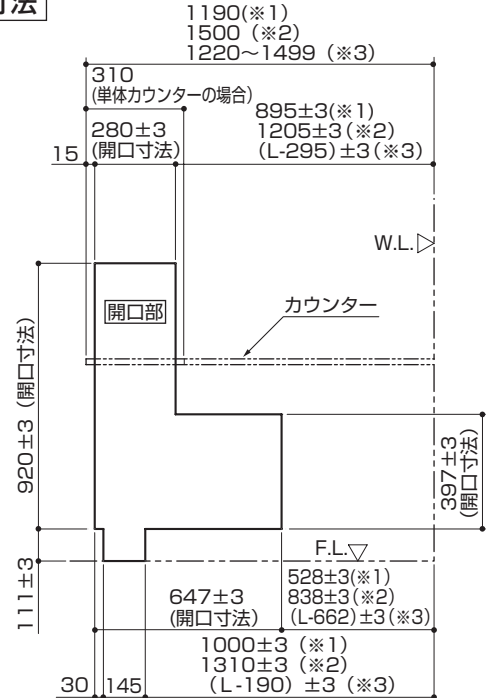
カウンターをカットする場合は、カウンター長さに合わせて開口位置を調整してください。

床給水・床排水の場合

補強棧詳細



壁開口寸法



※1 1200サイズの場合

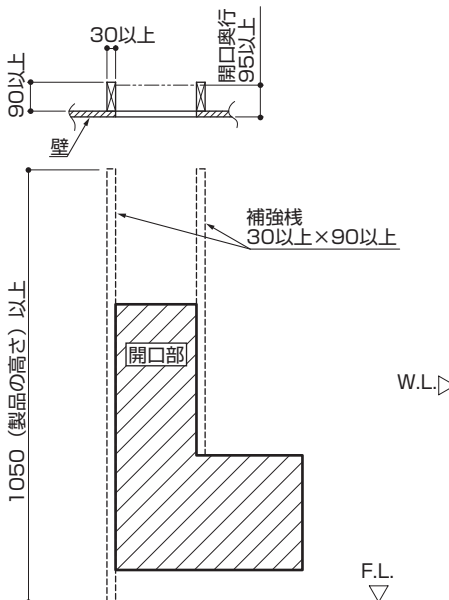
※2 1500サイズの場合

※3 カウンターをカットする場合

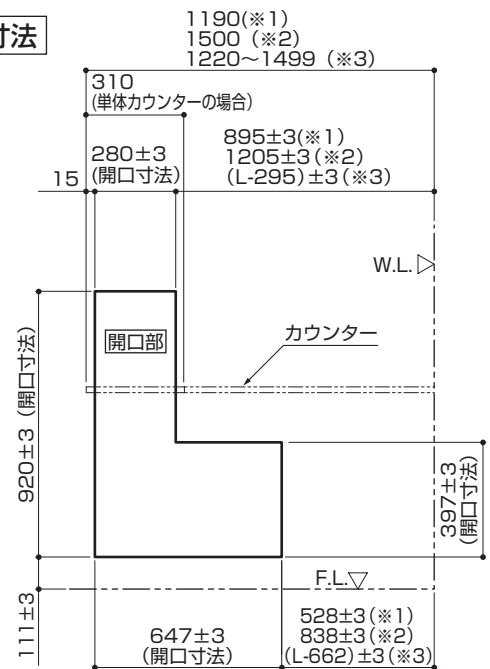
※図はL勝手の場合を示しています。R勝手の場合は上図と逆の配置となります。

埋込床給水・埋込床排水の場合

補強棧詳細



壁開口寸法



※1 1200サイズの場合

※2 1500サイズの場合

※3 カウンターをカットする場合

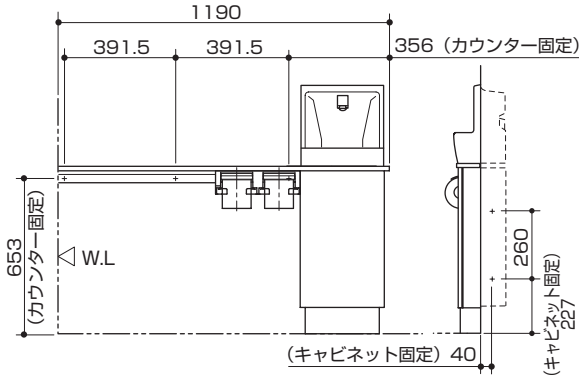
※図はL勝手の場合を示しています。R勝手の場合は上図と逆の配置となります。

4 補強材について

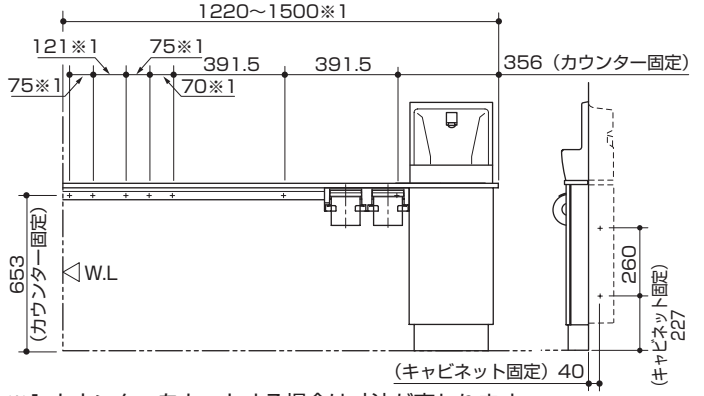
- ・あらかじめ壁固定位置に補強棧(幅90mm×厚さ30mm耐加重1961N/m(200kgf/m))
または、厚さ12mm以上の補強合板(JAS規格相当品)を壁全体に入れておいてください。(建築工事)
- ・タイル、コンクリート壁の場合は、壁固定位置に下穴をあけ、コンクリート用プラグ(現場手配)を打ち込んでおいてください。

固定ねじ位置

【1200サイズ】



【1500サイズ及び・カウンターをカットする場合】

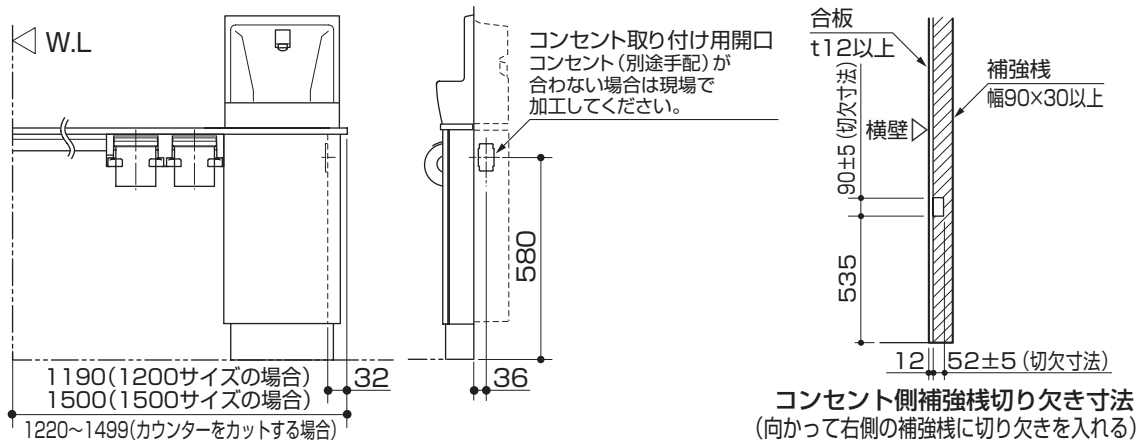


※1 カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

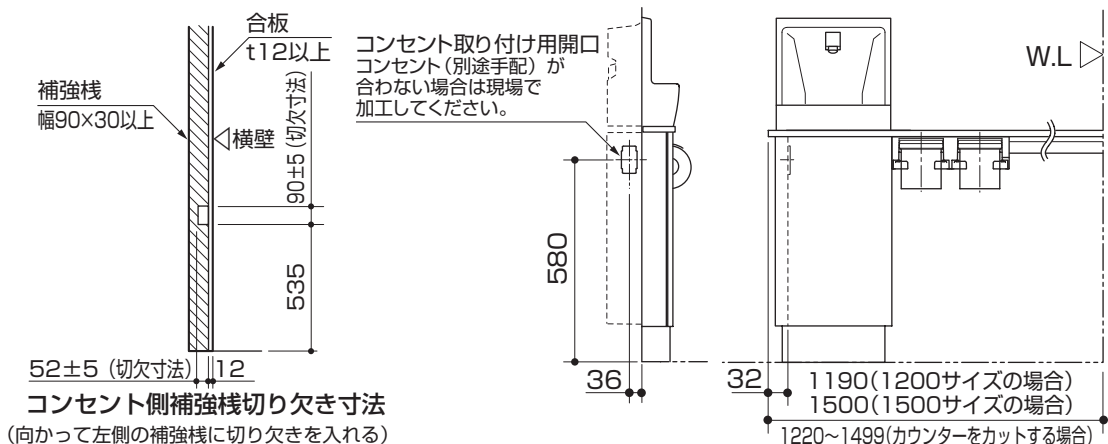
5 電気配線について

- ・自動水栓・電気温水器付自動水栓をセットされる場合、あらかじめ下図の位置に壁埋込式コンセント(電気温水器付自動水栓の場合は接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式2口コンセント)を設置してください。
- ・定格消費電力:自動水栓(常時0.4W(作動時0.6W))、電気温水器(505W)
- ・コンセントは付属品として同梱されておりませんので、現場にて手配してください。
- ・あらかじめ下図のコンセント位置まで配線工事のみを行い、手洗器キャビネット取り付け後にコンセントを設置してください。

右勝手



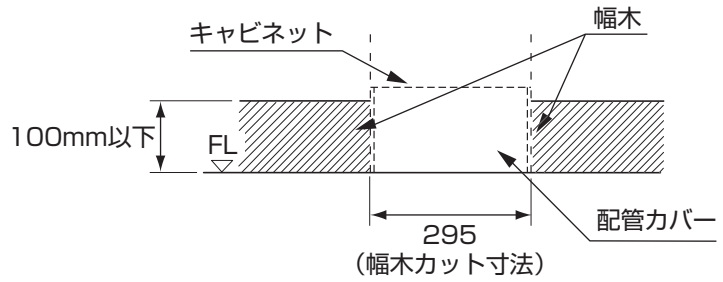
左勝手



6 幅木について

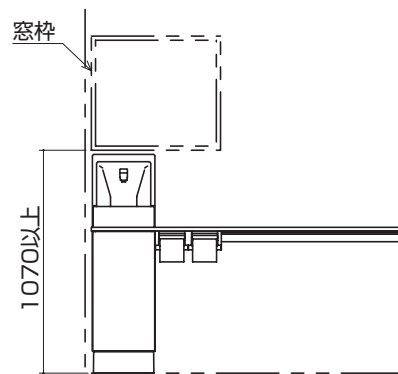
床給水・床排水の場合

右図の寸法で幅木をカットしてください。
※埋込床給水・埋込床排水の場合、幅木カットの必要はありません。



7 窓枠について

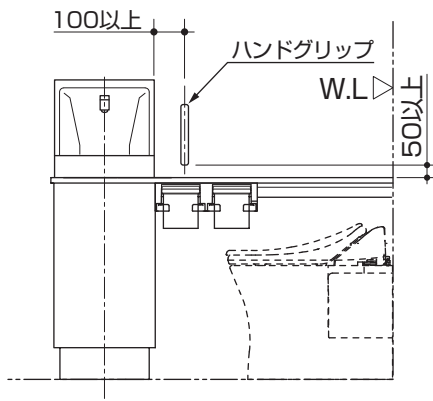
窓がある場合、右図のような制約が付きます。
事前に製品と干渉しないように注意してください。



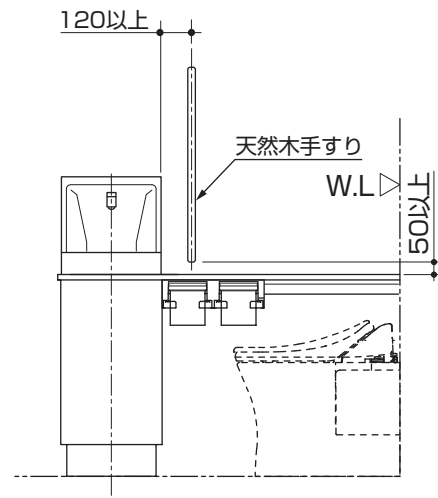
8 ハンドグリップ、天然木手すり取り付け位置について

- ①設置の際は、下図の有効寸法をお守りください。
- ②便器の前出寸法は機種によって異なりますので使用者が特定できる場合はその使いやすさに合わせて取付位置を決定ください。

1200カウンターサイズ



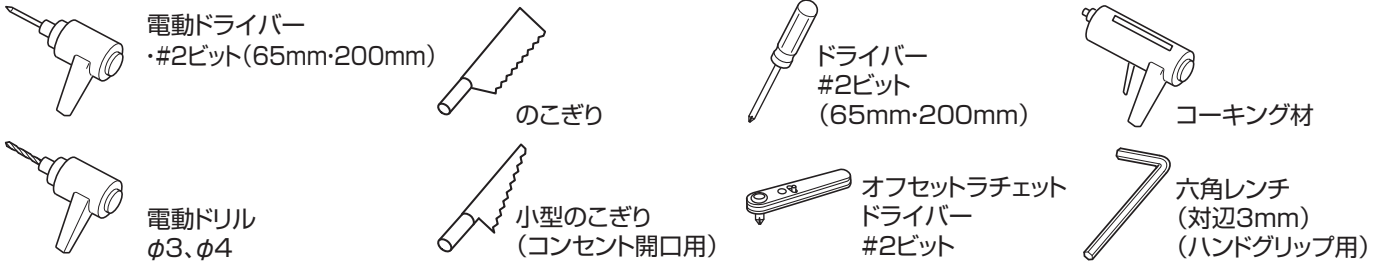
1500カウンターサイズ



2 部品の確認

必要工具

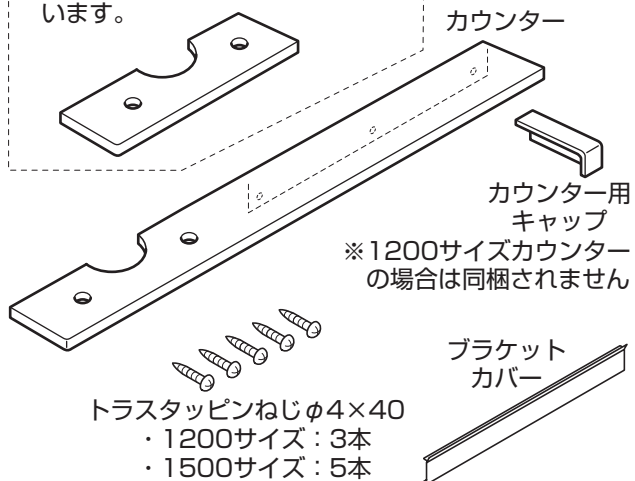
※一般水道工事に使う工具以外に、下記の工具を用意してください。



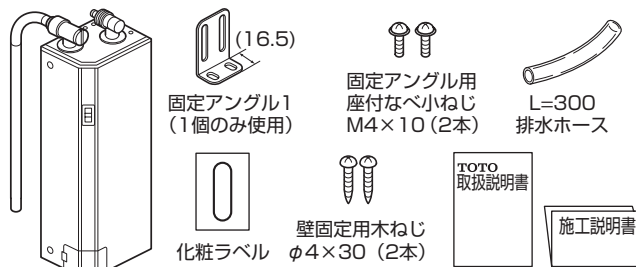
手洗器部 <p>手洗器</p>		手洗器キャビネット部 <p>キャビネット</p>	
<p>施工説明書 (本書) 取扱説明書</p>		<p>底板</p>	
<p>配管カバー ※埋込床給水・埋込床排水の場合は配管カバーはありません。</p>		<p>排水金具 三角パッキン スリップワッシャー 接続管</p>	
<p>トラスタッピンねじ φ4×30(2本) 固定ねじ φ4.5×50(4本) 手洗器固定金具(4個) 手洗器固定ねじ(蝶ボルト) M6×50(4本) ワッシャー(4個)</p>		<p>スペーサー 穴うめキャップ(2個) (足元収納を連結する場合のみ) 化粧キャップ(4個)</p>	
紙巻器 <p>紙巻器 (カウンタータイプの場合のみ)</p>	<p>棚付二連紙巻器 (単体タイプの場合のみ)</p>	石けん受け <p>石けん受け (埋込あり手洗器)</p>	<p>石けん受け (壁付)</p>
<p>天然木手すり本体 (天然木手すり付の場合のみ) ※製品により形状が若干異なります。</p>		<p>タオル掛け本体</p>	
ペ <p>給水用 排水用</p>	止水栓 <p>止水栓 床給水 給水管</p>	<p>皿タッピンねじ φ4×16(4本) I型キャップ</p>	
自動水栓の場合のみ <p>コントローラー 固定材</p>	<p>開閉工具 埋込床給水 止水栓 給水管</p>	排水金具 <p>クイックファスナー 排水管 (床排水の場合) 排水管 (埋込床排水の場合)</p>	
<p>ホースクランプ</p>	<p>自動水栓機能部</p>	<p>φ4.5×40 トラスタッピンねじ×4 φ4×16 六角穴付タッピンねじ×1 ハンドグリップ本体 (ハンドグリップ付の場合のみ) ブラケットカバー 木製キャップ</p>	
<p>φ4×30 トラスタッピンねじ×3</p>		<p>取扱説明書 施工説明書</p>	

カウンター部

※単体タイプの場合、カウンターはキャビネット部の包装箱に入っています。

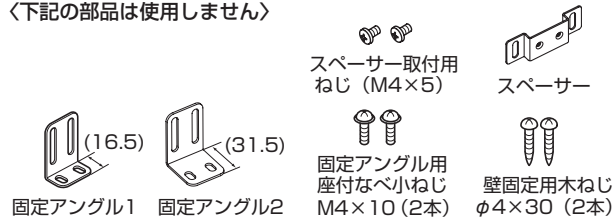


電気温水器(電気温水器付の場合)



電気温水器本体

<下記の部品は使用しません>



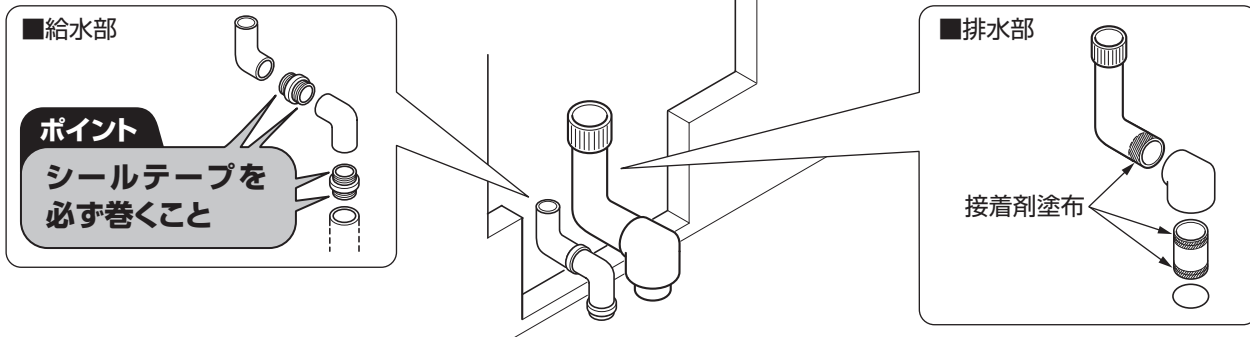
3 部材の取り付け

※この施工説明書では左勝手を説明しています。

1 偏心管を取り付ける (床給水・床排水の場合のみ)

現場の給排水位置に合わせて偏心管を取り付ける。

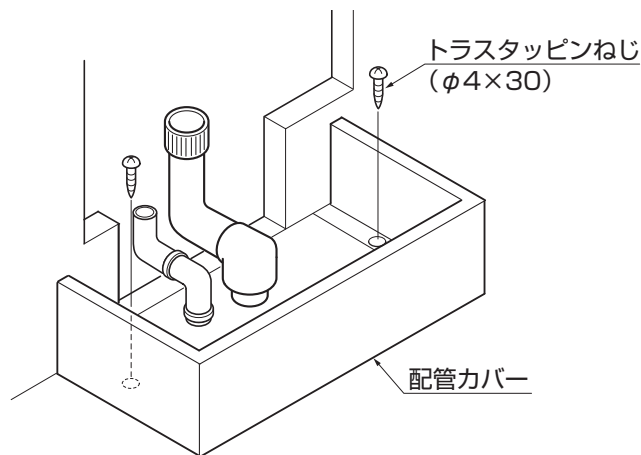
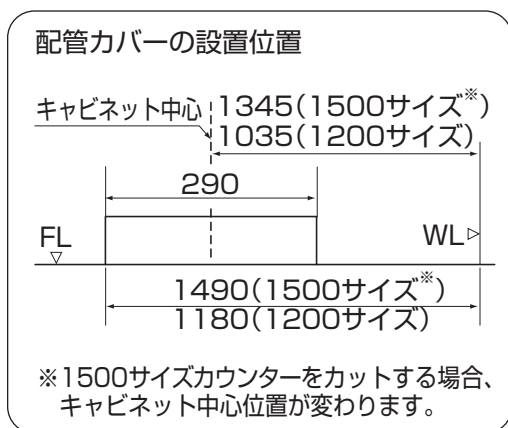
※埋込床給水・埋込床排水の場合は不要です。



2 配管カバーを取り付ける (床給水・床排水の場合のみ)

① 配管カバーを設置場所に仮置きし、床に下穴 (φ3) をあける。

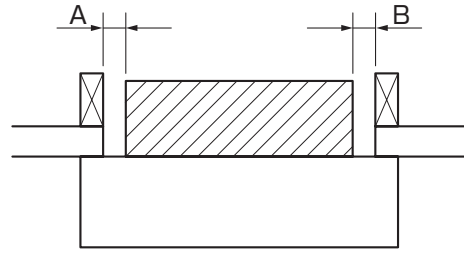
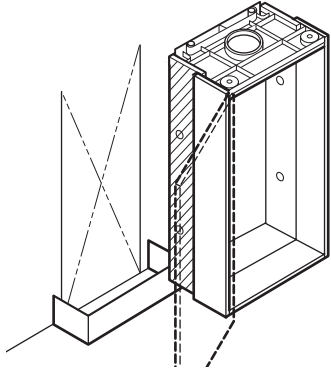
② 同梱のねじ (キャビネット固定用ねじセット) で固定する。



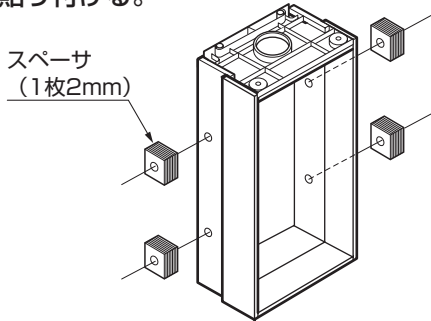
3 キャビネットの固定

配管カバーありの場合(床給水/床排水の場合)

- ① キャビネットを配管カバーに仮置きする。
- ② 開口部とのすき間(A・B)を測定する。



- ③ いったんキャビネットを外し、A・B寸法に合わせて固定部にスペーサーを貼り付ける。

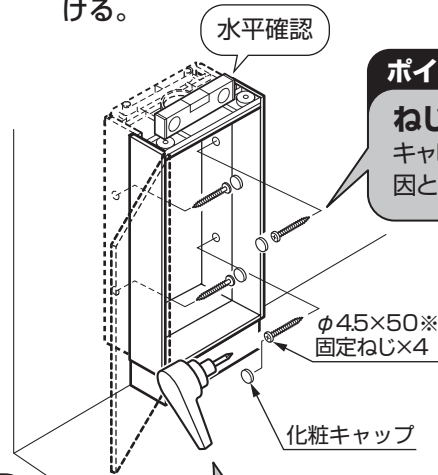


- ④ 再度キャビネットを配管カバーにのせ、水平を確認する。

- ⑤ 4本のねじを交互に均等な力で固定する。

【足元収納を併設する場合】

連結側はねじで固定せず、下穴に穴埋めキャップを取り付ける。



ポイント

ねじを締め過ぎない
キャビネットが変形する原因となります。

※足元収納を併設する場合
連結側に足元収納同梱の
ねじφ4×25を使用する。

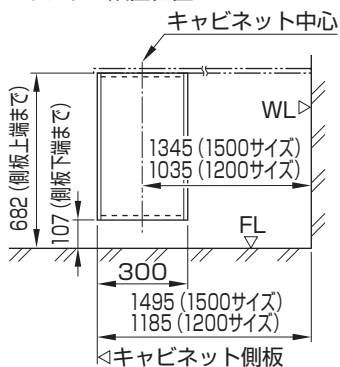
ポイント

アングル型の電動ドライバーがあると便利です。
事前にドリルでφ4の下穴を開けること。

配管カバーなしの場合(埋込床給水/埋込床排水の場合)

- ① 下図を参照し、壁に取り付け位置をけがく。
- ② 以降は上記を参照ください。

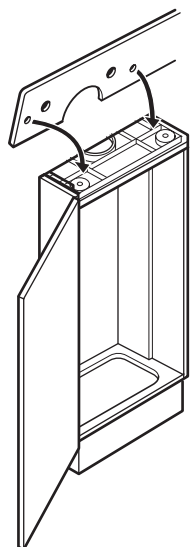
キャビネットの設置位置



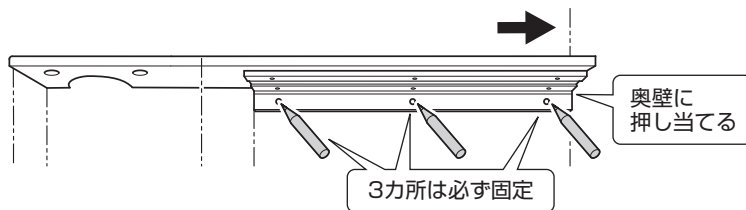
※1500サイズカウンターをカットする場合、
キャビネット中心位置が変わります。

4 カウンターの取り付け

- ① キャビネット上部のダボをカウンター裏面の穴に差し込む。
 ② カウンターの水平を確認し、壁に取り付け位置をけがく。



1200サイズカウンターの場合



1500サイズカウンターの場合



※固定用穴が5カ所以上ある場合、5カ所固定してください。

固定扉側1カ所を固定
※キャビネットから20mm以下の場合は端から2番目の穴を使用する

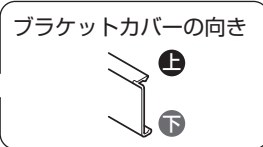
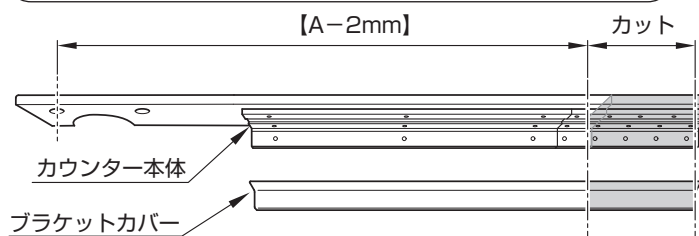
1500サイズカウンターをカットする場合

- ① カウンター本体・ブラケットカバーを[A-2mm]でカットする。
 (A: 奥壁からカウンター先端までの長さ)
 ※Aは1220~1500mmの範囲となります。
 1220mm以下になりますと、キャップの取り付けができません。

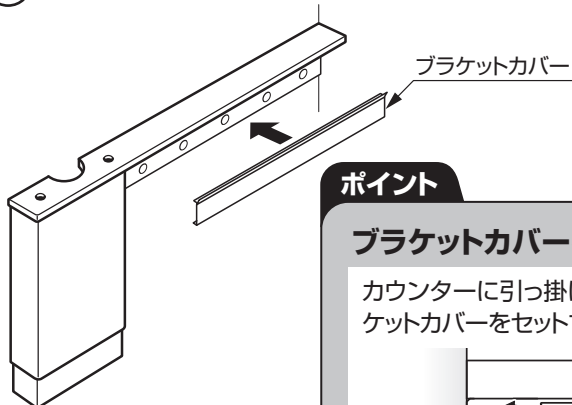
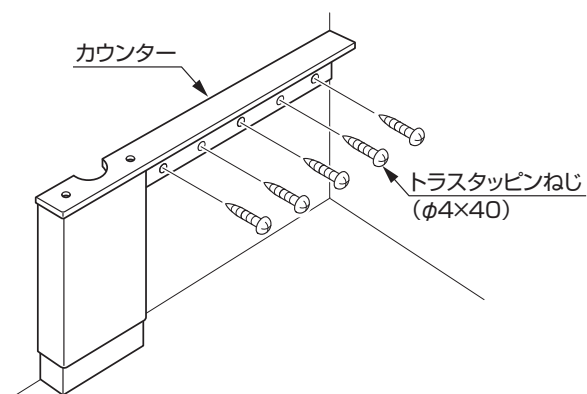
注意

⚠️ カットした面は滑らかに仕上げ
 お客様の手が触れ、けがをするおそれがあります。

- ② カウンターのカット面にカウンターキャップをはめる



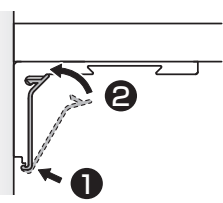
- ③ けがいた箇所の下穴(φ3)を開け、同梱のねじで固定する。
 ④ ブラケットカバーを取り付ける。



ポイント

ブラケットカバーをはめ込む

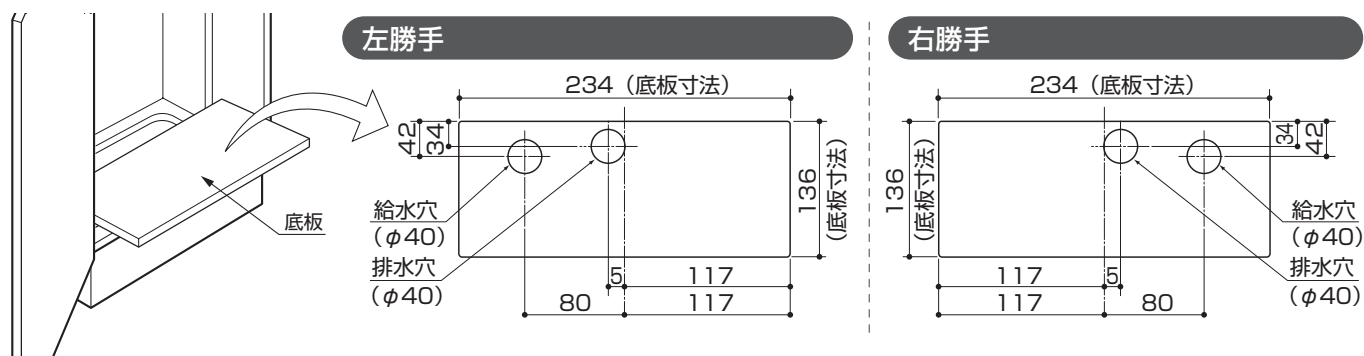
カウンターに引っ掛けるようにブラケットカバーをセットする



※図は1500サイズの場合

5 底板の給水・排水穴あけ

現場の給排水位置に合わせて、底板を右図の寸法にて穴あけする。
(底板は着脱式です。穴あけは自由キリを使うと便利です。)



※取り付けは「**7** 止水栓の取り付け」時に行う。

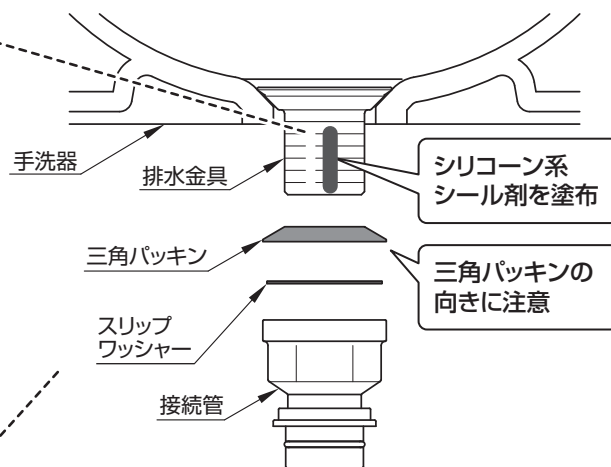
6 手洗器の取り付け

1 排水金具本体を取り付ける

① 排水金具のねじ部にシリコン系シーラントを塗布する

注意

排水金具ねじ部には、必ずシリコン系シーラントを塗布する
必ず実行 水漏れして、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



② 三角パッキン、スリップワッシャーをはめて、接続管を締める

ポイント

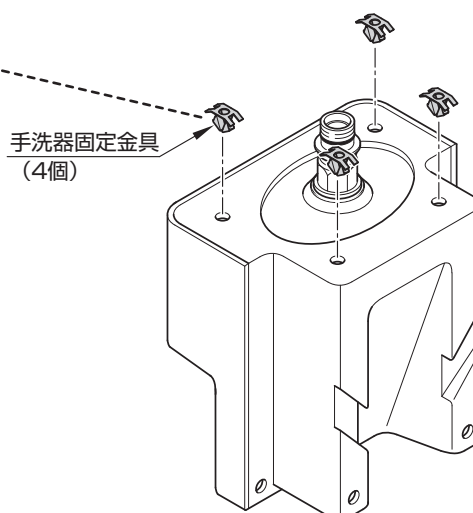
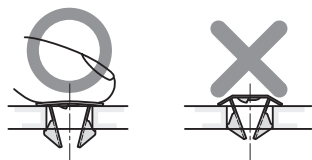
接続管は手締めした後、工具で軽く締め付ける
締めすぎると手洗器が割れるおそれがあります。

③ 手洗器裏面の穴に手洗器固定金具を4個取り付ける

ポイント

手洗器固定金具は手洗器を平らなところに置き、陶器とのすき間がなくなるまで、しっかり押し込む

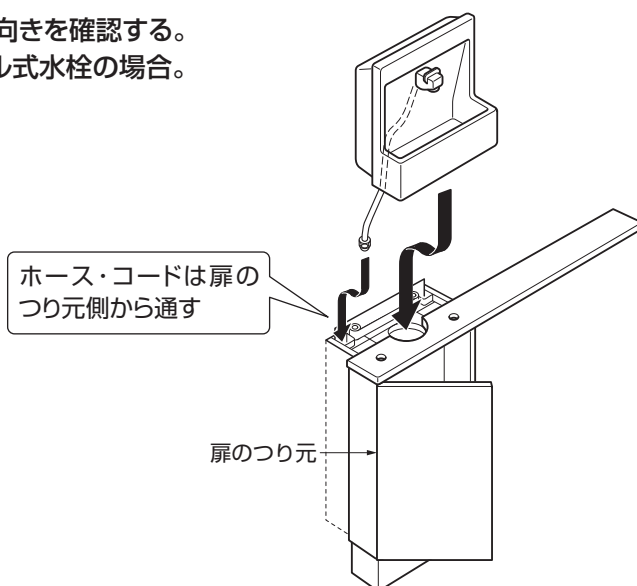
押し込みが足りないと、取り付けボルトが途中までしか入らず、手洗器が固定できません。



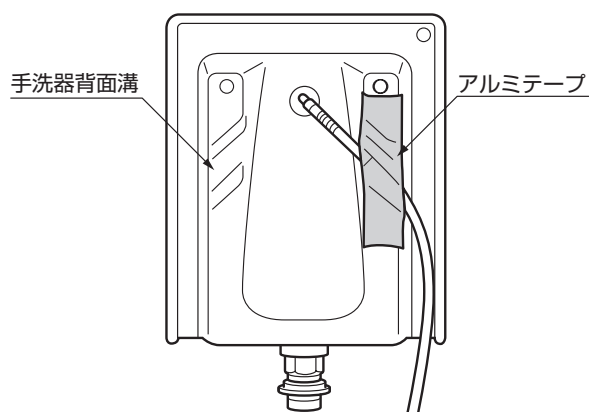
6 手洗器の取り付け (つづき)

2 手洗器を取り付ける

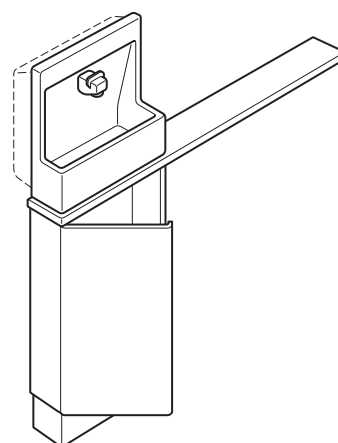
- ① 水栓ホースの向きを確認する。
※図はハンドル式水栓の場合。



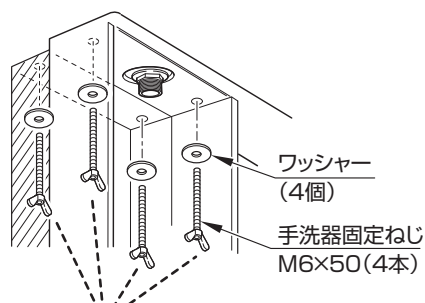
- ② 手洗器背面の溝に給水ホースを通し、アルミテープ
で固定する。



- ③ 手洗器を開口部に挿入する。



- ④ ねじで固定する。



手洗器キャビネットの下から
手洗器固定ねじM6×50(4本)
とワッシャー(4個)で固定する

ポイント

手締めすること

7 止水栓の取り付け

① 設備側の配管に接続する。

③ 部材を組み付け、
①に接続する。

ポイント

ベフを忘れないこと
排水管接続後に接着

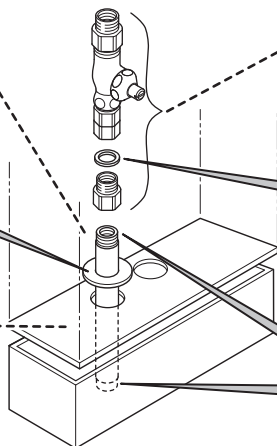
ポイント

パッキンを忘れないこと

② 底板(仮置き)をはめる。
(止水栓は底板に通す)

ポイント

シールテープを
必ず巻くこと



8 給水管の接続

ハンドル式水栓の場合

① 給水フレキホースを接続する。

給水フレキホース
水栓側

ポイント

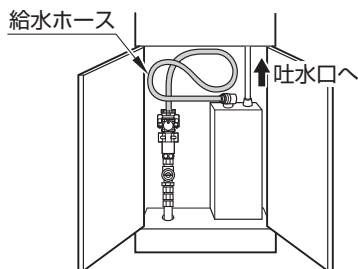
パッキンを忘れないこと

止水栓



電気温水器付の場合

参照 ※詳しくは、電気温水器の施工説明書を参照ください。
※給水ホースの取り回しは、下図を参照ください。



自動水栓の場合

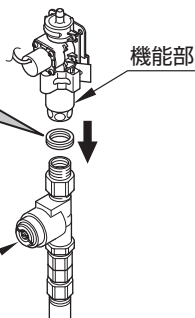
1 機能部を取り付ける

ポイント

パッキンを忘れないこと

機能部

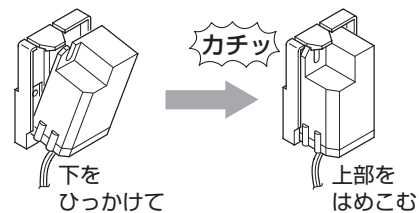
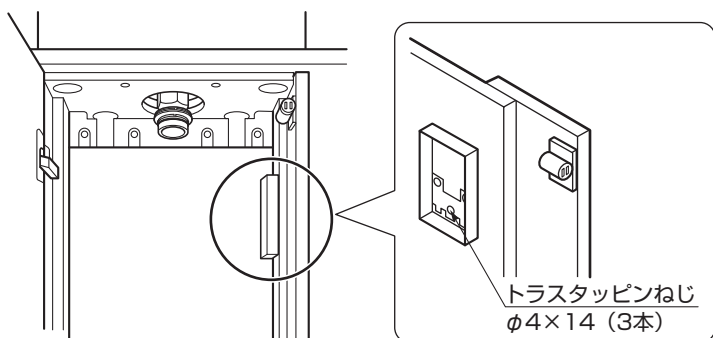
フィルター付止水栓



2 コントローラーを取り付ける

① コントローラー固定材をキャビネット内側板の下穴に合わせて取り付ける。

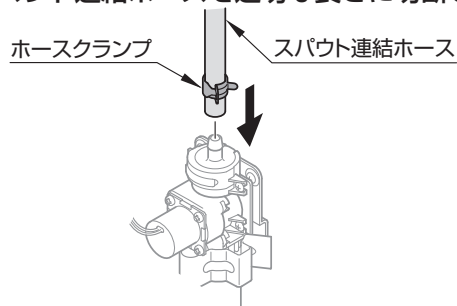
② コントローラーをコントローラー固定材にはめ込む。



8 給水管の接続 (つづき)

3 スパウト連結ホースの接続

- ① スパウト連結ホースを適切な長さに切断し、接続する。

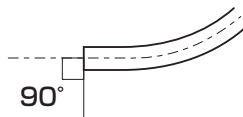


注意



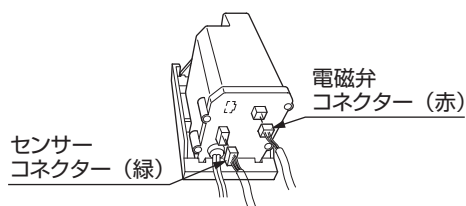
スパウト連結ホースを切断する際は、カッターなどを用い、切断面が垂直になるようにしてください。
(斜めに切断すると水漏れのおそれがあります。)

給水ホース接続後、軽く引っ張り抜けないこと。



4 コネクタの接続

- ① センサーコネクタ (緑) と電磁弁コネクタ (赤) をカチッというまで差し込む。



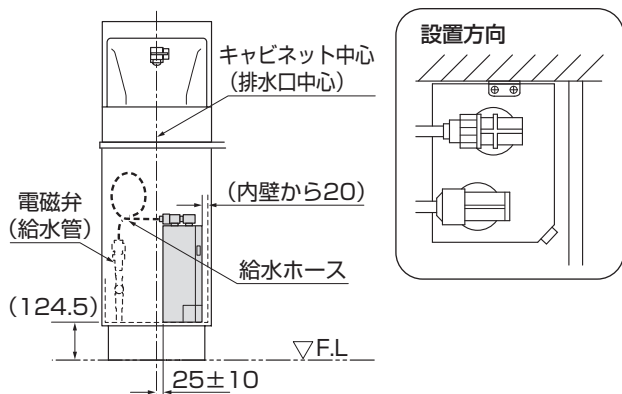
9 電気温水器本体の取り付け (電気温水器付の場合)

参照

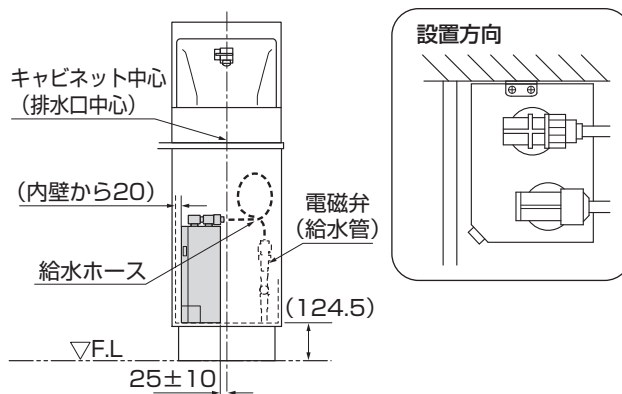
※詳しくは、電気温水器の施工説明書を参照ください。

※取り付け面がタイル・コンクリート壁の場合は、コンクリート用プラグ(現場手配)を使用してください。

左勝手



右勝手

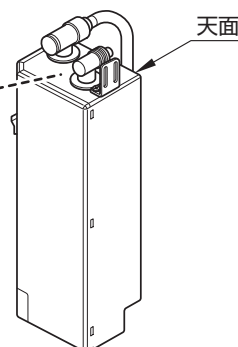
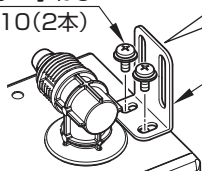


- ① 電気温水器に固定アングル1を同梱のねじで取り付ける

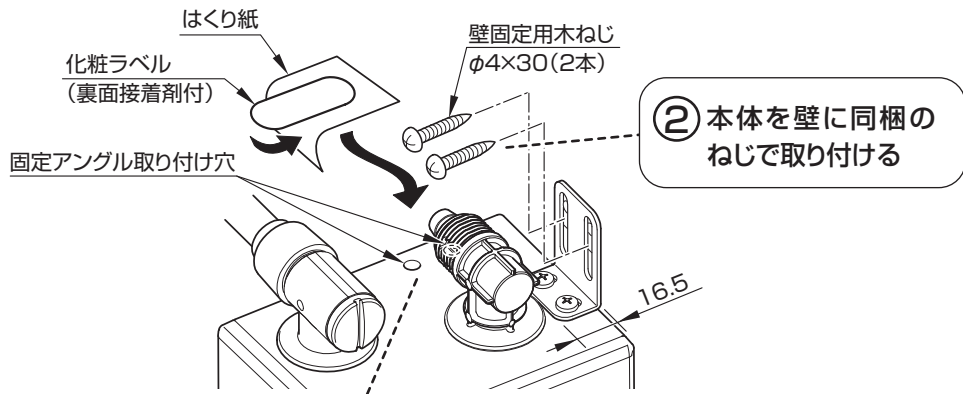
固定アングル用
座付なべ小ねじ
M4×10(2本)

短辺側を
本体に取り付ける

固定アングル1

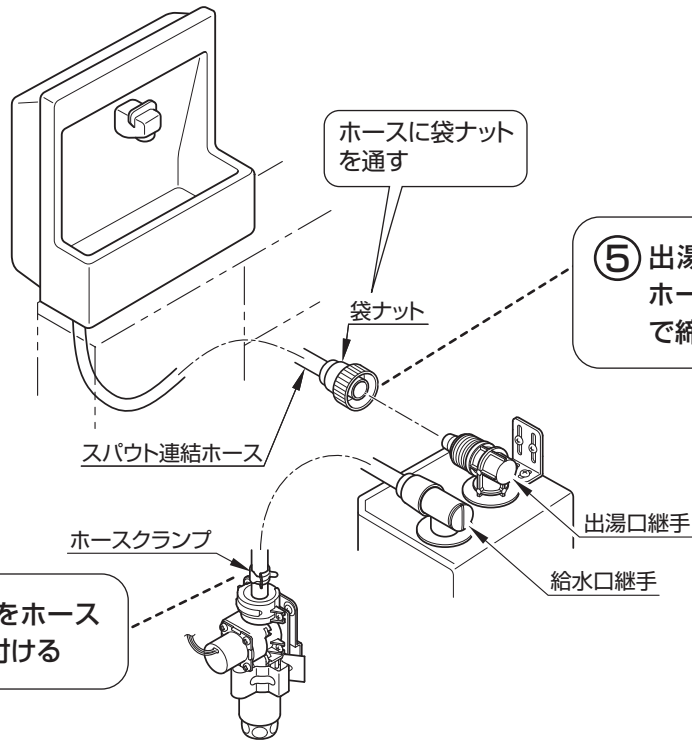


9 電気温水器本体の取り付け（電気温水器付の場合）（つづき）



② 本体を壁に同梱の
ねじで取り付ける

③ 化粧ラベルで電気温水器本体上部の
固定アングルを取り付けない方(長辺
側)の穴に貼り付けてふさぐ



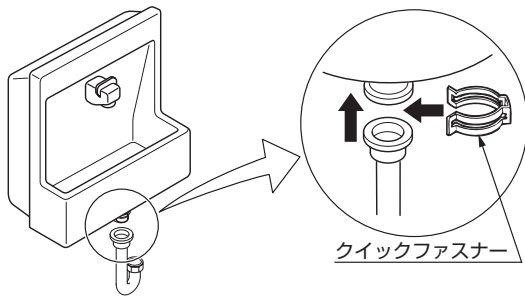
⑤ 出湯口継手にスパウト連結
ホースを差し込み、袋ナット
で締め付ける

④ ホースと機能部をホース
クランプで締め付ける

10 排水管の接続

床排水 / 埋込床排水共通

- ① 手洗器排水口にトラップを差し込みクイックファスナーで固定してください。

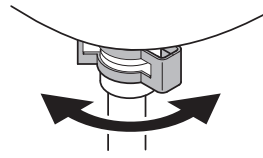


注意

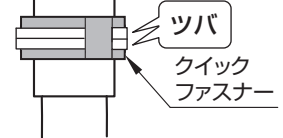


必ず実行

クイックファスナーが正しく固定されていることを確認する



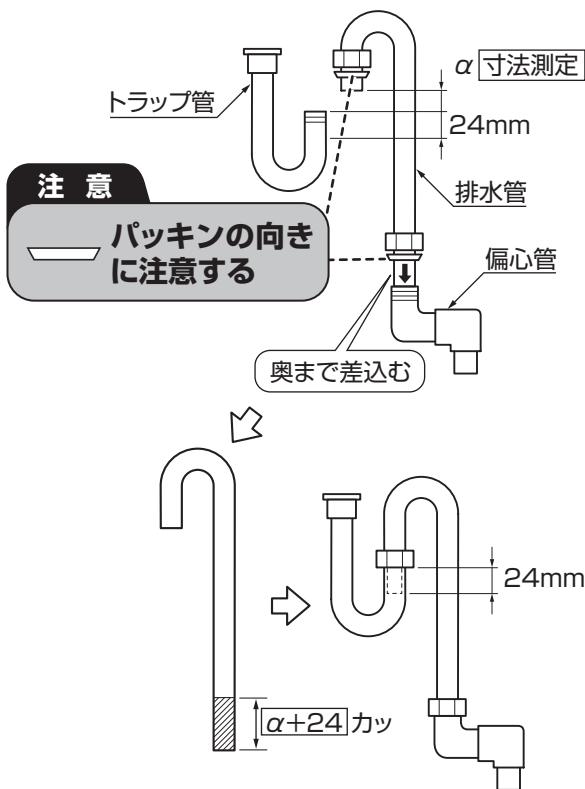
クイックファスナーの全周にツバがかかっていることを確認する



水漏れして家財などがぬれる財産損害発生の原因となります。

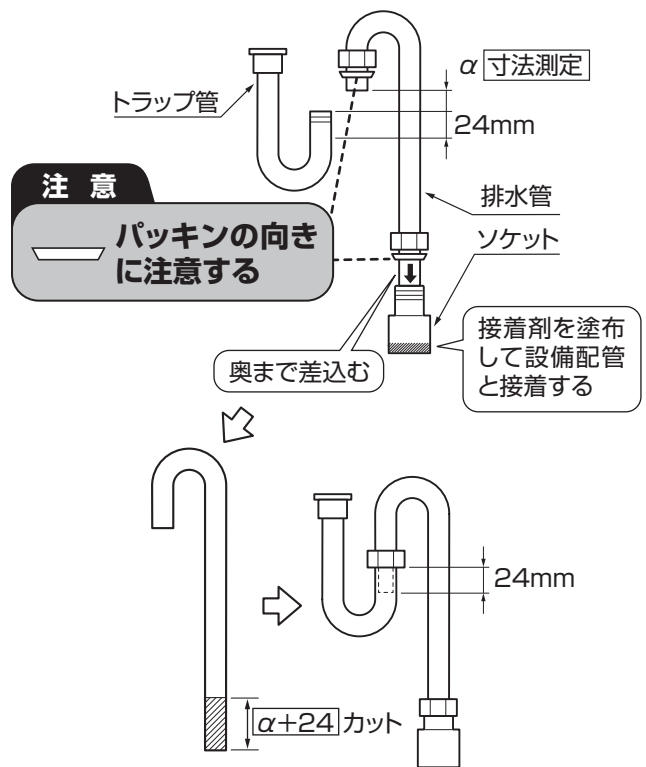
床排水

- ② 排水管と偏心管の袋ナットを緩める。
- ③ 排水管を偏心管へ差し込む。
長さが合わない場合は、図のようにカット寸法を確認し排水管をカットする。



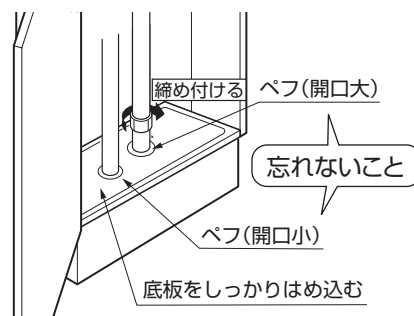
埋込床排水

- ② 排水管と偏心管の袋ナットを緩める。
- ③ 排水管を偏心管へ差し込む。
長さが合わない場合は、図のようにカット寸法を確認し排水管をカットする。



床排水 / 埋込床排水共通

- ④ トラップおよび偏心管 (ソケット) と接続してください。
- ⑤ 締め付け後、底板をしっかりとめ込み、排水管のすき間にペフを貼ってください。この時、止水栓のペフも同時に貼る。



4 器具類の取り付け

1 ハンドグリップ、天然木手すり、棚付二連紙巻器、石けん受け(壁付)の取り付け

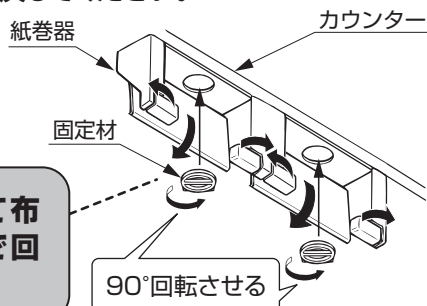
参照 ※詳しくは、専用の施工説明書を参照ください。

2 紙巻器の取り付け (カウンタータイプの場合のみ)

紙巻器を設置部に押し当て、図のように付属の固定ピースで90°回転させて取り付けてください。
固定後、紙切板を元に戻してください。

ポイント

固い場合は、当て布をしてペンチ等で回転させる

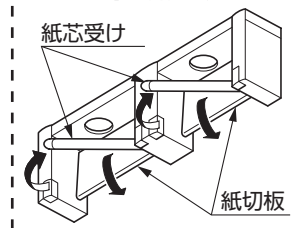


注意

固定ピースは確実に90°回転させて固定する
落下の原因となります。

図のように紙芯受けを外側に開き紙切板を奥方向に倒してください。

芯なし対応品の場合

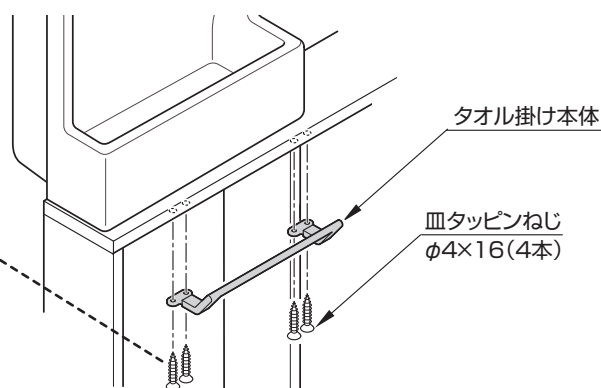


3 タオル掛けの取り付け (タオル掛けありの場合のみ)

カウンター裏面の下穴に同梱のねじで固定する

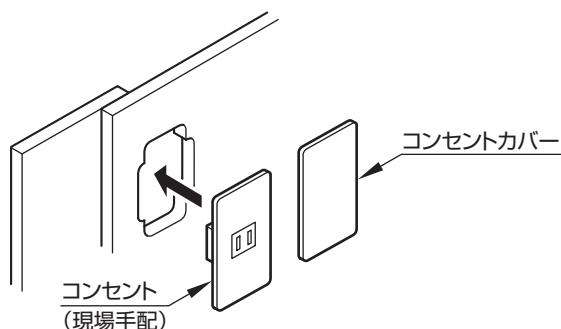
ポイント

ドライバーにて手締めすること



4 コンセントの取り付け

キャビネット側板にコンセント(現場手配)を取り付ける。
コンセントが必要ない場合はコンセントカバー(キャビネットに同梱)をはめ込みます。
※コンセント(現場手配)が合わない場合は、現場で加工してください。



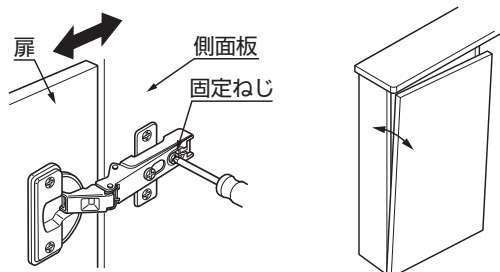
5 仕上げ・調整

1 扉の調整

キャビネット据付け後、扉の隙間が不均一だった場合以下の手順にしたがって調整し直してください。

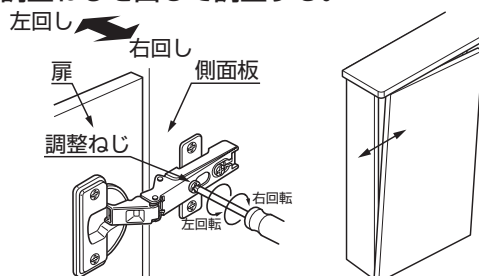
前後調整

丁番の固定ねじをゆるめて調整した後、締め直す。



左右調整

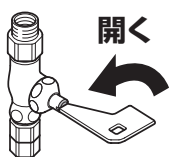
丁番の調整ねじを回して調整する。



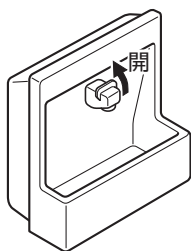
2 吐水確認

ハンドル式水栓

① 止水栓を開ける。

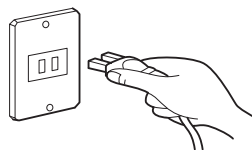


② ハンドルを回して吐水を確認。



自動水栓

① コンセントにプラグを差し込む。



② 止水栓を開けて手洗器に手を差し出し水が出ることを確認する。

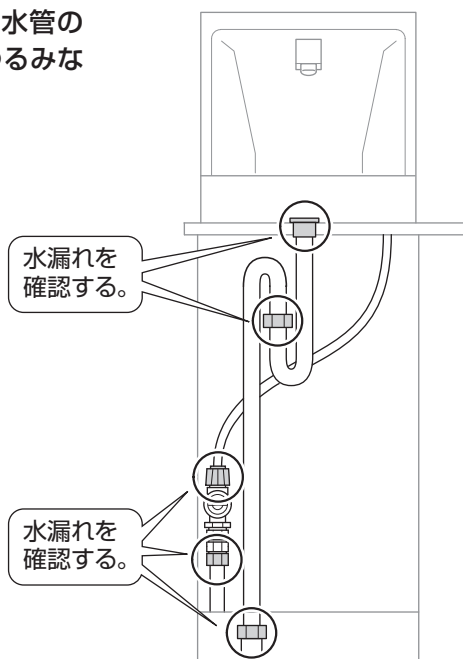


電気温水器付の場合

参照 電気温水器の梱包箱に同梱されている電気温水器の施工説明書の手順に従って吐水確認(試運転)を行なってください。

3 給・排水の水漏れ確認


2~3度洗浄させて、給水管や排水管の接合部から水漏れや袋ナットのゆるみなどが無いことを確認する。



4 フィルターの清掃（自動水栓の場合のみ）

1 止水栓フィルターを掃除する（自動水栓の場合のみ）

① 止水栓を閉める




止水栓

開閉工具※
またはマイナスドライバー

※付属の開閉工具をご使用ください。


② フィルターふたを開け、フィルターを取り外す



フィルターふた

フィルター

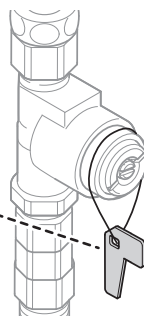
③ フィルターの清掃を行う



ポイント
フィルターの清掃は必ず実施する

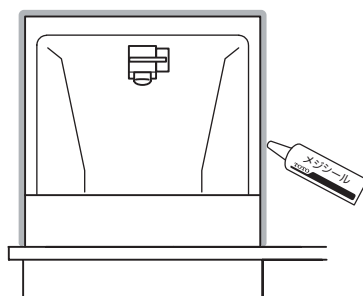
④ 開閉工具を止水栓にかけておく

- ・水漏れ確認後、開閉工具はお客様が緊急時に使用できるように止水栓につり下げておく
- ・つり下げたことを必ずお客様に伝えてください。



5 シリコン系シール剤の塗布

陶器周囲にシリコンシール剤（別途手配）を塗布することをおすすめします。



工事店様へ

このたびはスリムタイプCを施工いただきありがとうございました。

UGX1002Y 